

ところ会 7 月行事案内(最終版)

平成 27 年度、第 7 回テーマ：

忍城、古代蓮、さきたま古墳群をめぐる<マイクロバス>
(忍城、古代蓮の里、埼玉古墳群、石田堤史跡公園)

今回はバスを利用して行田方面の施設と史跡を巡ります。

記

■日時:平成 27 年 7 月 3 日(金)日帰り(雨天決行)

■集合場所:狭山ヶ丘駅ロータリー 出発時間・8 時 30 分

■集合時間:8 時 25 分

■コース

狭山ヶ丘駅前 8:30⇒入間IC⇒圏央道⇒桶川・北本IC⇒古代蓮の里【古代蓮会館】(10:00~10:50)⇒行田市郷土資料館・忍城址(11:00~12:20)⇒昼食処(12:30~13:25)⇒埼玉古墳群【さきたま資料館】(13:40~15:10)⇒石田堤史跡公園(15:30~15:50)⇒東松山IC⇒入間IC⇒狭山ヶ丘駅前 17:00 から 17:30 頃予定

■参加費用:4,500 円

■昼食:創作和食 渡ら瀬 渡ら瀬御膳(温かいうどん又はそば:チョイス)
…事前連絡が必要

生ビール中・432 円、生ビールグラス・324 円、ピンビール・540 円、
冷酒・832 円、ホットコーヒー・378 円

〒361-0075 埼玉県行田市向町 24-3 ☎048-555-6655

■注意事項

□キャンセル費用について(最終版通知後のキャンセル費用)：

前々日までは 2,000 円、その後は 3,000 円とします。

□参加費用の若干の剰余金で車内でのおやつを準備しますので、個人負担での差し入れには気を使わないでください。

■散策先：簡単ガイド(行田市観光協会案内ガイドより)

<古代蓮の里>

約 1,400 年から 3,000 年前のものとする行田蓮(古代蓮)をはじめとする 42 種類、約 12 万株の蓮が植えられています。午前中に開く蓮の花は、6 月下旬から 8 月初旬にかけて見頃を迎えます。

<古代蓮会館・蓮の資料館>

平成 13 年 4 月 22 日、古代蓮の里に「古代蓮会館」がオープンしました。園内にそびえたつタワーが目印です。この“古代蓮会館”の愛称は、平成 12 年 7 月に公募。845 通の応募の中から選ばれた市内に住む小学生ら 8 名の作品である“古代蓮会館”が選ばれました。

館内は、展示室、展望室、休憩所、研修室の 4 つに分かれています。

1 階展示室では、蓮に関する様々な資料を展示しており、一年中古代蓮の魅力を楽しむことができます。また、行田の自然も紹介しています。2 階展望室では、地上 50 メートルから大パノラマを望むことができ、関東平野を取り囲む山々を眺められます。



<忍城址・郷土博物館>

関東七名城の一つとされる忍城は、室町時代の文明年間に築城されました。時は戦国時代の終わり、豊臣秀吉の関東平定に際して、石田三成らによる水攻めにも耐えたことから「浮き城」の別名が生まれたと伝えられています。

現在の忍城御三階櫓は、明治 6 年に取り壊されたものを再建したもので、最上階からは市内の景色が一望できます。

昭和 63 年に開館した郷土博物館は、かつての忍城本丸跡地にあり、『行田の歴史と文化』をテーマとした展示を行っています。



<さきたま古墳群>

「金錯銘鉄剣」が出土したことで全国に知られている「稲荷山古墳」や、日本一の規模を誇る円墳「丸墓山古墳」など、9 基の大型古墳が残されています。約 30ha の古墳公園内には、



はにわ作りを体験できるはにわの館や埼玉県立さきたま史跡の博物館などもあり、古代のロマンを堪能できるスポットとして親しまれています。

また、付近には関東の石舞台といわれる「八幡山古墳」など、多くの史跡があります。

<埼玉県立さきたま史跡の博物館>

埼玉県立さきたま史跡の博物館は、埼玉県行田市のさきたま古墳公園（9基の大型古墳からなる埼玉古墳群（国の史跡）を整備した公園）内にある博物館です。博物館は1969年に埼玉県立さきたま資料館として開館。

埼玉県の県立博物館再編計画に伴い、2006年に埼玉県立さきたま史跡の博物館と改称されました。展示施設は本館と將軍山古墳展示館からなる施設です。



本館には国宝展示室と企画展示室のふたつの展示室があります。国宝展示室では金錯銘鉄剣（国宝）などのさきたま古墳群やその周辺の遺跡の出土品が展示されており、企画展示室では定期的に企画展が開催されています。

將軍山古墳展示館は1997年にオープンした展示館で、埋葬の様子が復元された石室の内部を見学できるようになっています(今回は拝観の予定はしていません)。

【稲荷山古墳出土品】

博物館が保管する「金錯銘鉄剣」などの稲荷山古墳出土品一括は「武蔵埼玉稲荷山古墳出土品」として、1981年に重要文化財、1983年に国宝に指定されました。出土品の所有者は日本国（文化庁）です。

稲荷山古墳からは、金錯銘鉄剣、神獸鏡、硬玉勾玉、銀環、刀剣類、馬具類などの遺物が出土しました。このうち金錯銘鉄剣は、剣身の両面に計115文字の銘文が金象嵌で記されており、古代史研究上の一級資料である。銘文中に「辛亥年」の年紀と「獲加多支鹵大王」の人名がある。通説では「辛亥年」は471年、「獲加多支鹵」は「ワカタケル」と読み、雄略天皇（『宋書』に記す倭王武）に該当するとされるが異説もある。



<石田堤史跡公園>

石田堤（いしだつつみ）は、豊臣秀吉による関東平定の一環として小田原方の成田氏長の居城である武蔵国・忍城を石田三成らが攻めたとき（忍城の戦い）に、水攻めのために忍城の周囲を総延長28km（現・埼玉県行田市・鴻巣市内）に渡って築いた堤。



天正18年（1590年）の関東平定において、忍城城主・成田氏長は小田原城に籠城し、留守を預かる城代成田長親は、残った士卒・兵・地元農民ら3000が忍城に立て籠った。攻城の総大将に任じられた石田三成は力攻めを行ったが、周囲は沼や深田という足場の悪さにも守られ、城攻めは遅々として進まなかった。そのため、三成は忍城を望むことができる丸墓山（現・丸墓山古墳）の頂きに本陣を構え、水攻めを発案し、忍城周囲に総延長28kmにも及ぶ堤を築いた。

総延長28kmに及ぶ堤をわずか1週間で作り上げたと言われるが、実際には自然堤防や微高地を巧みに繋ぎ合わせたものと思われる。堤が完成した後、利根川・荒川の水を引き入れたが、城にはあまり水が溜まらなかった。

その後、増水したため、堤が決壊して石田方に多数の溺死者が出て、水攻めは失敗に終わった。

以上